

日韓フェミニズム運動に現れる 「承認をめぐる闘争」の考察

SHIM Hyokyung

研究背景および目的

社会的に理不尽なことに対する社会運動として、私的な尊重欠如の経験がコミュニケーション行為を通じて共有され、共感を得たことにより「承認をめぐる闘争」としてのフェミニズム運動が発生するとみなすことができる。これらの枠組みから、本研究ではフェミニズム運動を「承認をめぐる闘争」とみなし、フェミニズム運動の中でも、特に日本と韓国の #MeToo 運動を取り上げる。そして、「承認をめぐる闘争」をもとに日韓の #MeToo 運動に現れる承認の諸問題を補完できる解決策を提示することを目的とする。

本文の構成

第 1 章は承認論と日韓の #MeToo 運動に対する先行研究をまとめた。

第 2 章は、アクセル・ホネットの「承認をめぐる闘争」と「承認論」の概念について述べた。承認論では、承認を「愛」「法/権利」「連帯」の三形式に分けて考察した。それに相当する尊重欠如は、「虐待」「権利の排除と人格の尊重」「侮辱と尊厳の剥奪」である。この三つの尊重欠如の中で、一つでも経験したら「不正感情」を感じ、その感情から起こる闘争が「承認をめぐる闘争」である。

フェミニズム観点で承認論を批判したフェミニストであるナンシー・フレイザーとアレン・エイミーの理論を第 3 章にまとめた。フレイザーは、社会的不平等には承認の問題と再配分の問題が混合されているため、「承認をめぐる闘争」と「再配分をめぐる闘争」の二元論的に扱う必要があると主張する。これらの闘争に参加する人々は平等な機会を与えなければならないというのが「参加の平等」である。さらに、グローバリゼーションによる「枠組み間違いの問題/誤ったフレーム化」が発生し、誰が「代表」なのかを意識しなければならないという、二元論から拡張した三元論の正義論を提唱する。なお、アレンは、ホネットが私的関係として述べた「愛」の関係(=親密圏)にも政治的・権力的な関係が存在するという。そのため、親密圏も一つの闘争の場になることができ、公共圏の役割も果たすことができる。

第 4 章では、#MeToo 運動を「承認をめぐる闘争」から考察し、日韓の #MeToo 運動で現れる承

認の問題を分析した。#MeToo 運動は、望まない性的行為を強いられて不正感情を感じてその感情から抜け出すために、被害を共有することで共感を獲得し、連帯を形成して社会に対する闘争を起こす。その闘争を通して、被害者は被害者として承認される。

韓国の #MeToo 運動の問題は、「女性たちの問題」というフレームを作られてしまったことである。その結果、男性たちは最も強い連帯を生み出し、女性は逆に連帯の分裂を呼び出した。なお、自分が経験したのが性的被害なのか判断することが難しく、意識したとしても発言する機会が少なかった。そこで発生することが「沈黙の問題」である。さらに、その原因のもう一つは、昔から続いたミンジニーの問題である。その結果、女性に対する男性のバッシングが政治にまで影響を及ぼした。

他方、日本は #MeToo 運動があまり広がらなかったという意見がある。その理由として三つを挙げている。第一に、セクハラ・性暴力に対する意識が確立していないことである。第二に、告発した被害者個人に対するバッシングが激しいことだ。第三に、新自由主義による「自己責任論」の影響がある。これらの理由から日本の #MeToo 運動には沈黙の問題が発生する。

すなわち、日韓とも #MeToo 運動において沈黙の問題が発生する。原因としては、家父長制社会による男性中心社会とジェンダー間権力問題、また新自由主義社会による自己責任も問題として挙げられる。

それでは、この沈黙の問題を解決することで #MeToo 運動が究極的に願望する社会的制度の变革は何であるか。第 5 章に三つの節に分けて説明する。第 1 節 #MeToo 運動の沈黙の問題：排除の問題では、性的被害者は他の被害者より排除されやすいので、被害者にのみ着目することは良くないことを述べた。つまり、被害が発生する権力関係を把握し、被害者の「参加の平等」を保障することで被害者は被害者として承認されることができる。その結果、見えない被害者も参加することができる機会を与えられるようになる。第 2 節では、親密圏における公共圏の役割について考察した。性的被害者は親密圏の言説を通じて自律した個人として、そして被害者として参加者で平等な権利を持った人格として承認されるときに、公共圏に平等に参加することができる。最後の第 3 節では、沈黙の問題を解決するために連帯の政治が必要であることを述べた。今までの考察で #MeToo 運動は「承認をめぐる闘争」であり、被害者たちは被害者として承認されるために公共圏の役割をする親密圏から自律した個人として相互承認されなければならないことを明らかにした。さらに、沈黙の問題を乗り越え、持続可能な連帯を形成するために、被害の声を理解し、平等に「政治的に包容」し、「参加の平等」を保障することが必要である。これらの内容は #MeToo 運動に限らず、フェミニズム運動の全般、そして幅広い社会運動においても重要な示唆点である。